

令和2年度

川崎市バレーボール協会

ルール講習会

日時 令和2年4月11日(土)

川崎市バレーボール協会

審判委員会

2020年度 公益財団法人日本バレーボール協会 審判規則委員会 指針

2020年度審判規則委員会は、以下の5項目を指針とし、各事業を推進する。

- 1 審判員は、国内競技会及び国際競技会をスムーズに運営するために必要な事前講習会に参加して審判員としての質の向上を図る。審判員の技術のレベルアップがバレーボールの競技力向上になることを忘れてはならない。
- 2 各種別において判定基準の統一を図り、安定した審判技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、バレーボールとしてのインテグリティが保てるようにルールを的確に適用し、公平・公正な競技運営を行う。
- 3 選手・指導者を対象に、ルール及び取扱いについての周知・徹底を図り、正しい理解とルール遵守を醸成する。
- 4 各ブロックと連携して、A級審判員資格取得講習会や審判育成事業等を通して、次世代を担う若手審判員の育成を努める。
- 5 男女共同参画をさらに進めるため、特に各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進する。加えて子育て世代の女性レフェリーが活躍できる環境整備を推進する。

-
- 指導部：1 審判員の技術の向上を目指し、A級審判員にカテゴリーを設け、映像等も有効に活用しながら、レベルに応じスキルアップのための技術強化事業を推進する。
- 2 審判員の責務として、選手・指導者に対しルールはもとより、ルールの改・修正点や取扱い等を正確に伝達しルールの理解を深め、スムーズな大会運営だけでなく競技力の向上に資する。
 - 3 各ブロックとの連携をしながら、A級審判員だけでなく幅広く公認審判員、特に若手審判員の育成事業を実施し、裾野の拡大を図る。
 - 4 女性審判員については各世代のライフスタイルに合わせ、安心して審判活動に取り組める環境整備とともに強化事業を推進する。

規則部：見易く正確で分かりやすいルールブックの作成を目指し、4種別のケースブックの編集を行う。6人制と2人制はFIVBからの最新情報を収集し、必要に応じて改正・修正を行う。また、9人制についても競技の活性化を図るために、親しみやすいバレーボールを目指し、そのルールの研究を進める。

登録部：JVAメンバー制度(MRS)に従って、公認審判員のMRS登録の増加を目指して早期登録手続きの完了と公認審判員の現状把握を行う。

以上

2020年度 各種ルールの改正点・修正点について

1 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2017年1月18日にFIVBより「ルールブック2017-2020」として公表されたものである。FIVBでは、オリンピック後にルール改正を検討しており、2020年度版ルールブックでは改正はない。

本年は、『2020東京オリンピック・パラリンピック』が開催される年であるので、2020年度版ルールブックも『英文併記』とした。

なお、「ケースブック」についても2019年度版と同様に、ケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

●修正点

1. 付録(3) 公式記録記入法を国内の記録用紙用に記載を修正した。
2. 付録(4) リベロコントロールシート記入法を国内の記録用紙用に記載を修正した。
3. 付録(5) プロトコールの名称をプロトコールA、プロトコールBと表現を変更した。
4. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
5. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

2 9人制改正点・修正点

今年度は、昨年度までのラリーの継続を踏襲し、プレーをする側も、観る側も理解しやすいよう競技規則の改正を行うこととした。またその他、日頃からJVAに寄せられた9人制競技規則に対する意見等も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすい競技規則になるよう心掛けて編集にあたった。

今年度の9人制競技規則の主な改・修正点は以下のとおりである。

なお、昨年度からの修正・変更・追加した部分は下線で、削除した部分は取り消し線で表記した。

●改正点

1. 第1条(競技場)について
 - (1) 第1図の監督制限ラインを廃止し、選手交代ゾーンのラインを追加した。
 - (2) 監督制限ラインの条項を削除し、それ以降の条項を1項ずつ繰り上げた。
 - (3) 選手交代ゾーン(第5項)を「それぞれのコートに、サイドラインから外側に20cm間隔で、長さ15cmの5本のラインをコート中央から3mの位置になるように引く。選手交代ゾーンは、この5本のラインの間で、サイドラインの外側からフリーゾーンの端までとする。」に改めた。
2. 第5条(競技参加者の権利と義務)について
 - (1) 「・・・遅延させない限り、選手交代ゾーンに引いたラインの延長線からウォームアップエリアまでの、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。」に改めた。(第2項3(1))

(2) 「監督がいないときは、タイムアウトおよび選手交代の要求をすること。・・・」に改めた。
(第3項3(1))

3. 第20条(ネット付近でのプレー)について

(1) 「相手チームがプレーしているボールに対し、アンテナ外側のネット垂直面を越えて相手空間内にあるボールに触れたとき。」に改めた。(第5項(4))

4. 第21条について

(1) 第21条を「ボールイン・アウト」に改めた。

(2) 「ボールが床面に接触したとき、ボールの一部でもラインを含むコートに触れた場合は、ボールインとする。」を追加した。(第21条1)

(3) 1を2に繰り下げ、(1)を以下のように改めた。また、(2)以降を繰り下げた。

(1) コート外の床面、物体、天井、またはプレーしていない人に触れたとき。

(2) アンテナ、アンテナ外側のネット、ロープ、支柱に触れたとき。

●修正点

1. 罰則を適用する際のカード名称

黄カードをイエローカードに、赤カードをレッドカードに修正した。

第26条 試合の遅延

第2項 試合の遅延に対する処置(第5表)

第27条 不法な行為

第1項 軽度の不法な行為

第2項 罰則を適用する不法な行為の種類と内容

第3項 不法な行為に対する処置(第6表 不法な行為に対する罰則段階表)

第33条 公式ハンドシグナル

第7図 審判員の公式ハンドシグナル ㉑, ㉒, ㉓, ㉔

付録(2) 公式記録記入法

第1 試合経過の記録方法

3 試合中 記載例: 図-2の記載内容 ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥

2. 特別競技規則

付録(1) 特別競技規則

JVAが主催する競技会を含め、国内大会に適用する特別競技規則を次のとおり定める。

(小学校・中学校・高等学校について削除した)

3. ケースブック

凡例の変更 2-2-3, 2-3-8, 3-3-2, 4-5-6, 4-7-5, 4-8-1

内容の変更 2-3-2, 2-3-6

内容の修正 4-8-1, 4-8-2, 4-8-3, 4-8-4, 4-8-5, 4-8-8, 4-8-9

3 ビーチバレーボール改正点・修正点

本競技規則は、2017年1月18日にFIVBより「ルールブック2017-2020」として公表されたものである。FIVBでは、オリンピック後にルール改正を検討しており、2020年度版ルールブックでは改正はない。

また、ビーチバレーボールルールブックは6人制ルールブック同様に『2020東京オリンピック・パラリンピック』に向けて今年度も『英文併記』とした。

2020年度版はルールの取り扱いについての周知を図るために『ケースブック』を改訂し付録に掲載した。また、ケースブックにおける『用語集』を掲載した。

以下が本年度の主な修正点である。

●修正点

1. 公式記録用紙のサンプル「備考」の上の欄にメディカルアシスタンスプロトコールに関する新規項目「メディカル・アシスタンス・チャート」が設けられた。
2. チャレンジシステム採用時のフォーマットの記入法サンプルを入れた。
3. 規則をより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。
4. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

4 ソフトバレーボール改正点・修正点

競技規則制定から33年を迎え、競技規則は、6・9人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い、適合したものとなるよう心掛け編集にあたった。

以下が本年度の主な改・修正点である。

●改正点

[一般] [小学生]

(1) 第5章 プレー上の動作と反則

22 プレー上の反則 (小学生は21)

- ① 22.10 タッチネットの条文に、次の1項目を加えた。
22.10.2 ネットの幅の支柱部分に触れたとき。
- ② 22.13 ボールアウトの条文に、次の2項目を加えた。
22.13.5 ボールがフリーゾーンを越えたとき。
22.13.6 他の選手や競技場内の物体で身体を支えたり、これを利用してボールをプレーしたとき。
- ③ 22.15 インターフェアの条文に、次の1項目を加えた。
22.15.3 インプレー中に、選手がネット下を通り抜けたとき。

[小学生]

(1) 第2章 チーム

6 競技参加者の権利と義務

- ① 6.2 監督の権利と義務の条文の下記項目より「選手としてコート内にいるときは、その権利を失う。」の表記を削除した。
- ② 6.3 チームキャプテンの権利と義務の条文に、次の1項目を加えた。
6.3.4 チームキャプテンは試合終了後公式記録用紙にサインし、結果を承認する。

●修正点

[一般] [小学生]

(1) 第1章 施設と用具 1 競技場

- ① 1.2 コート 1.2.1フリーゾーンに関する表記の一部を修正した。
- ② 1.3 サービスゾーン 1.3.2ショートサービスゾーンに関する表記の一部を修正した。

(2) 第5章 プレー上の動作と反則

- ① 17.4.6 ショートサービスゾーンからのサービスに関する表記の一部を修正した。
 - ② 18.7 両チームの選手の同時接触に関する表記の一部を修正した。
 - ③ 20.4・20.5・20.6 これまでの項目を3項目に区分、またオーバーネットに関する表記の一部を修正した。
 - ④ 21.2.3 ボールの許容区間外側の通過に関する表記の一部を修正した。また、第6図を修正した。
 - ⑤ 22.13.2 ボールの許容区間外側の通過に関する表記の一部を修正した。
- (3) 第6章 不法な行為とその罰則の第1表中、表記を一部修正した。
- (4) 公式ハンドシグナルの適用条項を項番見直しに合わせ修正しました。
- (5) 公式記録用紙の一部修正と、公式記録記入法の表記を一部修正した。
- (6) プロトコールの表記の一部を修正した。
- (7) ケースブックの表記を修正した。

2020年3月20日

『2020年度 指導部の目標と6人制の重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 審判員は、競技規則を理解するだけでなく、正確に適用する。
- (2) 審判員は、ホイッスルやハンドシグナルを大切に、基本的な動きや位置取り、手続きを確実に行う。
- (3) 審判員は、向上心を持ち、日頃から信頼されるよう多くの経験を積む努力をする。

2 重点指導項目

【主 審】

- (1) 不法な行為について
 - ・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度で競技規則を適用する。
 - ・軽度な不法行為を見逃すことなく、早い段階でステージ1を与える。
- (2) ハンドリング基準について
 - ・クリニック等で基準の確認を行い、すべての審判員が統一できるようにする。
 - ・ラリーを継続するという理由で基準を下げない。
 - ・シングルハンドトスの反則の多くはキャッチの場合が多い。ただボールが回転したからといって反則にすべきではないが、反則が起こらないということではない。
- (3) サービス許可について
 - ・両チームがプレーをする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。
- (4) 最終判定の出し方について
 - ・ホイッスルをした後に、必要なラインジャッジと副審を確認し、最終判定を出す。

【副 審】

- (1) 不法な行為について
 - ・ネット際やベンチ等で、主審が気づかない不法な行為があれば主審に伝える。
- (2) ポジションの反則について
 - ・サービスヒットの前に移動したり、明らかに入れ代っているなどを見逃さない。
 - ・常に確認することを怠らない。反則があれば、試合の早い段階で反則とする。
- (3) タッチネットについて
 - ・選手がネット際でボールをプレーする動作中、ボールを追わずにネット際に目を残し判定をする。
- (4) サービスヒット後について
 - ・サービスヒット後、サービスボールが副審側の許容空間外側を通過するか、あるいはアンテナに触れるかを判定するために素早くネット上方に視線を移す。

(5) 中断の要求について

- ・ゲームの流れを読むとともに、ワンラリー毎にベンチコントロールを行う。
- ・最終セットのチェンジコート後は、ポジションの確認をした後にリベロリプレイスメントや中断の要求を認める。
- ・選手交代の手続きを十分理解し、複数の交代、両チーム同時のケースについてスムーズに行えるようにする。
- ・タイムアウト（テクニカルタイムアウト）後、コートに入ることが遅い場合、ホイッスルとシグナルで促す。繰り返す場合は遅延の罰則を適用するよう進言する。

【スコアラー】

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスのないようにする。
(JVIMSがある場合は、その情報も参考にする)
- (2) ブザーがある場合、セット間終了はブザーで合図する。
- (3) 選手交代は確実に選手番号（または○印）とその時の得点を記入する。
 - ・チームが複数の選手交代の要求をした場合は、最初に1度だけブザーを鳴らす。
 - ・同時に両チームから選手交代の要求があった場合は、片方のチームの選手交代を完了させた後、再度ブザーを鳴らしてからもう一方のチームの選手交代を行う。
- (4) 記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審と副審が確認したときに誤りがあったときは、スコアラーが修正する。
- (5) 予備の記録用紙を準備する。

【アシスタントスコアラー】

- (1) スコアラーと声を掛け合って、交代選手の番号や得点を確認し合う。
- (2) 不法なリベロリプレイスメントがあれば、サービス許可のホイッスルのあと、すぐにブザーを鳴らす。
- (3) タイムアウト、テクニカルタイムアウト中は、リベロの位置を副審に通告する。リベロが2人のチームの場合、リベロがコートにいるときは番号も副審に通告する。
- (4) スコアボードの得点が正しいか確認する。
- (5) テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。
- (6) 予備のリベロコントロールシートを準備する。

【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し、試合に臨む。

2020年度 6人制ルールの取り扱いについて

2020, 3, 20

1 競技参加者の行為 (PARTICIPANTS' CONDUCT) に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為 (SPORTSMANLIKE CONDUCT)

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

20.2 フェアプレー (FAIR PLAY)

20.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 主審の判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。
- 3 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①主審が最終判定を出した後も審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②主審がゲームキャプテンの質問に答えた後も、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③ゲームキャプテンの質問の内容が規則の適用や解釈でない場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース (直接イエローカードを出すケース)】

- ①主副審やラインジャッジの判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
 - ②主副審やラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 4 監督が副審やスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
 - 5 試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

2 チームリーダー (TEAM LEADERS) に関する事項

5.2 監督 (COACH)

5.2.1 監督は、試合を通して、コートの外からチームのプレーを指揮する。

(注)

1 監督の指示

監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ (特にL2・L3) の判定の妨げにならないように審判員が注意する。

ラリー終了後、審判の判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

2 監督が試合に遅れて来た場合

- ① 遅れて来た監督は、ベンチに着席することができる。
- ② ゲームキャプテンは、監督が来たことをラリー間に審判へ口頭で伝える。
- ③ 監督が来たことを審判が確認したら、監督は権利を行使することができる。
- ④ 監督は、セット間もしくは試合終了後に記録用紙にサインする。

3 プレーの構造 (STRUCTURE OF PLAY) に関する事項

7.3 スターティングラインアップ (TEAM STARTING LINE-UP)

7.3.1 いかなるときも1チーム6人でプレーしなければならない。

チームのスターティングラインアップは、コート上の選手のローテーション順を示している。この順番は、そのセットを通じ維持しなければならない。

7.4 ポジション (POSITIONS)

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは (サーバーを除き) それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

7.5 ポジションの反則 (POSITIONAL FAULT)

7.5.1 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、いずれかの選手が正しいポジションにいない場合は、そのチームはポジションの反則をしたことになる。選手が不法な選手交代をしてコート上にいて、試合が再開された場合は、不法な選手交代によるポジションの反則とみなされる。(規則 7.3, 7.4, 15.9)

7.5.2 サーバーがサービスヒットの瞬間にサービスの反則をした場合には、ポジションの反則に先立つものとみなされ、サービスの反則と判定される。(規則 12.4, 12.7.1)

7.5.3 サービスヒット後にそのサービスが反則となった場合は、ポジションの反則となる。
(規則 12.7.2)

7.6 ローテーション (ROTATION)

7.6.1 ローテーション順は、チームのスターティングラインアップにより決められ、そのセットを通じ、サービス順と選手のポジションによりコントロールされる。

7.7 ローテーションの反則 (ROTATIONAL FAULT)

7.7.1 サービスが正しくローテーション順に行われなかったとき、ローテーションの反則となる。

その場合は次のような順序の結果となる：

7.7.1.1 スコアラーがブザーによって試合を止めた場合、相手チームに 1 点と次のサービスが与えられる。もしも、ローテーションの反則により始まったラリーが完了した後に、そのローテーションの反則が指摘された場合は、そのラリーの結果に関係なく、相手チームに 1 点だけが与えられる。(規則 6.1.3)

7.7.1.2 反則をしたチームのローテーション順は正しく直される。(規則 7.6.1)

(注)

- 1 セットの開始前、ラインアップシートどおりに位置していない場合
副審は、ゲームキャプテンを呼び、チームから提出されたラインアップシートを示し、選手のポジションの確認を行う。
- 2 セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合
 - ①副審は、ラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、どちらの選手がスターティングメンバーかを尋ねる。
 - ②監督が、ラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、該当するハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する。副審は、ハンドシグナルを示しながらホイッスルをする。スコアラーは、正規の選手交代として記録をする。この際、ラインアップシートどおりの選手をコートに戻す必要はない。(コート上の選手は手を挙げる)
 - ③監督が提出したラインアップシートどおりの選手をスターティングメンバーとすることを要望する場合は、その場で選手を入れ替えさせる。この場合には制裁はない。
 - ④副審は、両チームのラインアップを確認後、主審にシグナルを示し、ゲームが開始される。
- 3 不法な選手交代によるポジションの反則やローテーションの反則により始まったラリーが完了した後にその反則が発見された場合は、ラリーの結果をキャンセルし相手チームに 1 点と次のサービスが与えられる。また、間違いがもっと遅い時点で発見され、間違いをした時点が明らかな場合は、発見されるまでに間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。
- 4 チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられ、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点で両チームの状態に戻す。ただし、タイムアウト、テクニカルタイムアウト、罰則はそのまま有効とする。
- 5 サービスがヒットされた瞬間に、コート上の選手の足が相手コートに触れていた時は、ラリー中に選手が相手コートへ侵入する場合と同様に考える。(規則 11.2.2.1)

4 ネットの下からの相手コートへの侵入 (PENETRATION UNDER THE NET)

11.2.1 相手チームのプレーを妨害しない限り、ネットの下で相手空間に侵入してもよい。

(注)

- 1 選手が、レシーブのためにネット付近でスライディング等のプレーをした時に、誤って相手コートに入ってしまった場合、両足が完全に相手コート上の空間にあったとしても、足が相手コートに触れておらず、相手のプレーを妨害していなければ、反則とはみなさない。
- 2 選手が相手コートに侵入してコートが濡れて、危険な状況であると主審・副審が判断した場合は、直ちにラリーを止め、ノー・カウントとする。
- 3 選手が相手コートへ侵入し、プレーの妨害になったと主審・副審が判断した場合は、インターフェアの反則となる。

5 サービス (SERVICE) に関する事項

12.3 サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、両チームがプレーする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後に、サービスを許可する。

(注)

- 1 ラリー終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、およそ8秒のテンポで行う。
- 2 ラリー終了のホイッスルの後、選手交代やワイピングがない場合、およそ8秒が経過すればサーバーがサービスゾーンでボールを保持していることを確認し、サービス許可のホイッスルをする。
- 3 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには、サービスのホイッスルの前にコート上の選手が6人になるように促す。もし、主審がそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、主審はそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

6 中断 (INTERRUPTIONS) に関する事項

15.11 不当な要求 (IMPROPER REQUESTS)

15.11.1 以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である。

15.11.1.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。(規則 12.3)

15.11.1.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。(規則 5.1.2.3, 5.2.3.3)

15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷や病気の場合を除いて、同じチームが同じ中断中(次の

ラリーが完了する前)に2回目の選手交代を要求すること。(規則 15.2.2, 15.2.3)

15.11.1.4 タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。(規則 15.1)

15.11.2 試合での1回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、記録用紙には記録される。

(規則 16.1)

15.11.3 同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

(規則 16.1.4)

(注)

- 1 正規の試合中断の要求に関して、チームが不当な要求で拒否された後、その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが、違う種類の中断の要求は認められる。ただし、15.11.1.1の不当な要求については、サービスの実行が優先され、試合中断の要求はすべて認められない。
- 2 正規の試合中断の要求に関して、チームが遅延警告を受けた場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。(けがや病気による選手交代を除いて)
- 3 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、副審は、監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。
- 4 2組の選手交代の要求があり、その中の1組は不法な選手交代であった。副審は1組の選手交代を認め、不法な選手交代は拒否し、チームに遅延の罰則を与える。
- 5 サービスのホイッスルと同時に、あるいはその後の中断の要求は拒否され、ラリー終了後、記録用紙に不当な要求として記載する。もしも副審がホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。
- 6 タイムアウト及びテクニカルタイムアウト中、選手やチームスタッフは自チームベンチ付近のフリーゾーンに位置する。

7 副審 (2nd REFEREE) に関する事項

24.3 責務 (RESPONSIBILITIES)

24.3.1 それぞれのセット開始時や最終セットのコートチェンジ時に、必要に応じてコート上の選手の位置がラインアップシートどおりであるかチェックする。

(注)

- 1 最終セットのチェンジコート後のポジションの確認について、副審は、両チームの全ての選手のポジションを確認する。もしポジションが間違っていた場合は、ゲームキャプテンに確認をする。その後リベロリプレイスメントや中断の要求を認める。

『2020年度 指導部の目標と9人制の重点指導項目』

JVA国内事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 審判員は、競技規則を理解するだけでなく、正確に適用する。
- (2) 審判員は、ホイッスルやハンドシグナルを大切にし、基本的な動きや位置取り、手続きを確実に行う。
- (3) 審判員は、向上心を持ち、日頃から信頼されるよう多くの経験を積む努力をする。

2 重点指導項目

【主 審】

(1) ハンドリング基準

試合におけるハンドリング基準の統一はもとより、大会を通じたハンドリング基準の統一を確立させる。そのためには、各種講習会に積極的に参加しハンドリング基準の確認をする。また、大会に参加するときは実技クリニックを重く受け止め、大会で統一されたハンドリング基準になるよう努める。1プレー1プレーに目を残し確実に判定する。

(2) ネット際の判定

- ① オーバーネットの判定は、ブロッカーとボールの接点を確実に見て判定をする。オーバーネットの反則が起きる接点（ボール1個分を目安にアタック側）に視点を置き、反則が起きた瞬間に吹笛する。自コートでボールと接触した後にフォローの手が相手コートに出るプレーは反則ではない。また、複数のブロッカーの場合には、どの選手のどこの部分にボールが接触したかを確実に捉えて判定する。
- ② ブロックなのか、ブロックでないのかの判定を確実に行う。
- ③ ブロックした選手がブロック後のボールをネットに当てて続けて3回接触するプレーを正確に判定する。その場合、確信が持てないものは反則としない。
- ④ トスがネット付近に上がった時、アタック側、ブロック側のどちらが先に触れたのかを確実に判定すること。ボールの接触に時間差がある場合は、後に触れた方のチームが続けてプレーするときに、オーバータイムスの反則が起こっていないかの確に判定する。

(3) 不法な行為について

相手に向かって“ガッツポーズ”などで挑発・威嚇する行為など、チームメンバーによる不法な行為に対して、第27条「不法な行為」に則って罰則を適用する。

特にラリー終了時は、ネット際、チームベンチ、ウォームアップエリアを監視する。

(4) ラリー中の判定

副審とのコンビネーションが重要であり、ラリー中のワンタッチの確認及び主審から見えにくいプレーについては、思い込みで判定するのではなく、副審との協働で判定する。

(5) サービス許可の吹笛タイミング

ラリー終了から次のサービス許可の吹笛までの間が一定になるようにコントロールする。ボールデッドの間に必要な確認（中断の要求，他のコートからのボールの侵入，両チームの選手の状況，副審・記録員の状況など）を行い，ベストなタイミングでサービス許可の吹笛をする。また，デッドになったボールの行方も確認し，すぐに取りに行かない場合は吹笛で促す。

【副 審】

(1) 選手交代の手続き

① 選手交代の組み合わせの確認

選手交代およびセット間の選手交代は，記録員とともに交代できる組み合わせかどうかを確実に確認する。セット間の選手交代の組み合わせは，前のセットが終了した時点の状況を基準に，交代できる組み合わせであるかどうかを判断する。

② セット間の選手交代の確認

第2セット，第3セット開始時に，監督から次セットの先発選手の申告がない場合は，監督に確認する。確認の際は，記録用紙ではなくサービスオーダー票で確認する。

(2) タイムアウトの要求の確認

常に試合の流れを頭に入れ，ボールデッドになったとき，監督（監督がいない場合はゲームキャプテン）を確認し，タイムアウトの要求にタイムリーに対応する。ボールデッド後すぐに要求しないで少し時間を置いて，タイムアウトを要求するケースにも適切に対応する。

(3) 不法な行為について

チームベンチ，ウォームアップエリアにいるチームメンバーの不法な行為に対してコントロールし，不法な行為があれば主審に報告する。特にラリー終了時は，視野を広く持ち，ネット際からウォームアップエリアの状況を監視する。

(4) 記録用紙の確認

① 記載内容の確認

不当な要求，遅延，不法な行為，特記事項欄への記入などの記録が確実に行われているかを確認する。

② サービス順の誤りの確認

サービス順の誤りがあったときは，サービスオーダー票とともに記録用紙を確認し，誤りがあったときの手順を正しく理解し速やかに処置する。

③ セット開始時のサービスチームの確認

各セット開始時のサービスチームは，記録用紙で正確に確認する。

(5) ネット際の判定

① タッチネットの判定

第20条第3項「タッチネット」を理解し，正確に判定する。特にアタック後にネットの網目の部分に触れる反則が判定できるようにする。

② アンテナ付近の判定

ボールがアンテナに触れたのか，選手がアンテナに触れたのか，どちらのチームが反則になったのか正確に判定ができるようにする。

(6) 許容空間外側のボール通過の判定

許容空間外を通過するかどうかの判定は，取り戻しのプレーも頭に入れ，タイムリーに適切な位置取りを行い，正確な判定を行う。

【記録員】

(1) 選手交代の手続き

① 選手交代の組み合わせの確認

選手交代およびセット間の選手交代の組み合わせは、交代できる組み合わせかどうかを確実に確認する。セット間の選手交代については、前のセットが終了した時点の状況を基準に、交代できる組み合わせであるかどうかを判断する。

② 副審との協働

交代の組み合わせが正しいときは、必ず副審と目を合わせ、片方の手を挙げる。選手交代の記録を完了した後は、副審に両方の手を挙げて、記録が完了したことを報告する。複数の選手交代の場合は、副審との協働により1組ずつ正確に行う。

(2) サービス順の誤り

サービス順の誤りの反則がおきた場合、速やかに処置ができるよう、正しい手順を確実に把握する。

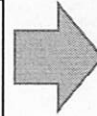
【線審】

(1) 担当するラインの判定を確実に行う。ワンタッチは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。

(2) ラインジャッジ・マニュアルを活用し、判定方法を確認し試合に臨む。

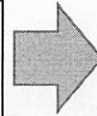
【P. 11】 まえがき 9 付録(2) 公式記録記入法 記載例：図-2の記載内容

誤
④ 第3セット, A 9対B 10のとき, Aチームの選手交代がキャンセルされ遅延のイエローカードが示された。 反則欄にD, AorB欄にA, セット欄に3, 得点欄に9:8と記入する。



正
④ 第3セット, A 9対B 10のとき, Aチームの選手交代がキャンセルされ遅延のイエローカードが示された。 警告 欄にD, AorB欄にA, セット欄に3, 得点欄に9:8と記入する。

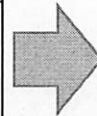
誤
⑤ 第3セット, A 17対B 16のとき, Bチームのゲームキャプテンでない選手がタイムアウトを要求し遅延のイエローカードが示された。 反則欄にD, AorB欄にB, セット欄に3, 得点欄に16:17と記入する。



正
④ 第3セット, A 17対B 16のとき, Bチームのゲームキャプテンでない選手がタイムアウトを要求し遅延のイエローカードが示された。 警告 欄にD, AorB欄にB, セット欄に3, 得点欄に16:17と記入する。

【P. 42】 第21条 ボールイン・アウト (第4図-1, 第4図-2)

誤
2(4)ボールの全体またはその一部でも, 許容空間外側のネットの垂直面を完全に通過したとき。ただし, 次の第21条 <u>2</u> に該当する場合は除く。



正
2(4)ボールの全体またはその一部でも, 許容空間外側のネットの垂直面を完全に通過したとき。ただし, 次の第21条 <u>3</u> に該当する場合は除く。

2020年度 9人制ルールの取り扱い

2020.3.20

1 選手交代に関する事項

第13条第2項 セット間の選手交代

セット終了時にチームベンチにいた選手は、誰とでも交代して、次のセットの先発選手となることができる。この交代は、選手交代の回数に含まない。

(注)

- 1 セット間に、監督から次セットの先発選手の申告がない場合には、速やかに監督に確認を行う。確認の際は、サービスオーダー票で確認する。
- 2 セット間に、監督から次セットの先発選手の申告がされ記録用紙への記入が完了した後でも、再度、監督から先発選手の交代が出された場合は、副審のセット間終了（2分30秒）の吹笛前であれば認める。

2 試合中断の不当な要求と処置に関する事項

第14条第1項 不当な要求

タイムアウトまたは選手交代の要求で、次のいずれかに該当するものは、不当な要求とする。

- (1) ラリー中、または主審のサービス許可の吹笛と同時に、その後の要求
- (2) 要求する権利のない競技参加者がした要求
- (3) 同じ中断中の2回目の選手交代の要求（インプレー中の選手が負傷等した場合を除く。）
- (4) 規定回数を超えた要求
- (5) 第1サービスと第2サービスの間の要求

(注)

1 1回目の不当な要求は拒否をして、記録用紙に記載する。

(1)『サービス許可の吹笛と同時か、その後の要求』は、ラリー終了後に公式記録用紙に記録する。

(2)『第1サービスと第2サービスの間の要求』、『同じ中断中の2回目の選手交代要求』、『規定回数を超えた要求』と『要求する権利のない競技参加者がした要求』は、これらの要求があった時点で公式記録用紙に記録する。

2 2回目の不当な要求(遅延警告)の処置の方法

(1)『サービス許可の吹笛と同時か、その後の要求』は、ラリー終了後に処置する。

(2)『第1サービスと第2サービスの間の要求』、『同じ中断中の2回目の選手交代の要求』、『規定回数を超えた要求』と『要求する権利のない競技参加者がした要求』は、これらの要求があった時点で処置をする。

3 上記1, 2のケースで副審が吹笛してしまった場合は、タイムアウトの要求等のケースで選手がベンチに戻ってしまうなど試合を遅らせたとき主審が判断した時は遅延とし、特に試合を遅らせずに再開できる時には、遅延とはせずにサービス許可の吹笛をし直し、そのラリーの終了後に不当な要求の処置を行う。

以上のように不当な要求があった場合、その都度記録員は、公式記録用紙に記録し、副審は、その内容を主審に報告する。

第2項 不当な要求の処置

1 不当な要求は、主審および副審は拒否する。ただし、プレーに影響を及ぼしたり、同一試合中に同一チームの競技参加者が不当な要求を繰り返したときは、そのチームを試合の遅延(第26条)として処置する。

2 不当な要求があった場合において、前1の規定が適用されたときでも、そのチームは同じ中断中に異なる種類の中断の要求をすることができる。

(注)

1 第1項(2)の不当な要求があった場合、その後直ちに監督またはゲームキャプテンが同じ種類の要求のハンドシグナルを示したときは、その要求を認める。

2 不当な要求が遅延反則になったときは、ラリーの終了があったものとして取り扱う。

3 ポールアウトに関する事項

第21条 ポールイン・アウト

- 1 ボールは、両アンテナ間でネット上方の許容空間を通過させ相手コートへ送らなければならない。このボールが次の状態になったときは、ポールアウトとする。
 - (1) アンテナ、アンテナ外側のネット、コート外の床面または物体、プレーしていない選手以外の人に触れたとき。
 - (2) ネットの下方をボールが完全に通過したとき。
 - (3) ボールの全体またはその一部でも、許容空間外側のネットの垂直面を完全に通過したとき。ただし、次の第21条2に該当する場合は除く。
- 2 ボールの全体または一部が、許容空間外側のネット垂直面を越えて、相手側のフリーゾーンに行った場合、チームに許された接触回数のなかで、以下の条件のもと、ボールを取り戻すことができる。
 - (1) ボールの全体または一部は、再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えて取り戻すこと。
 - (2) 選手は相手側のフリーゾーン内でプレーすること。

(注)

許容空間外のボールの取り戻しが可能となった事により、副審の位置取りが重要となる。

「ボールを取り戻すケースで許容空間内に返球された時の位置取りは、基本的にはボールの後か記録席の前とするが、プレーヤーの邪魔にならなければボールのコースに入って判定をする。」

プレーヤーはネットの下から相手方空間に侵入しても反則とはならない。ただし、相手方プレーへの妨害があると判断したらインターフェアの反則とするため、反則のあった瞬間に、吹笛することが大切である。また、取り戻しのプレーで相手コート内に侵入し、相手側のフリーゾーンへ行った場合は、インターフェアの反則とする。

4 サービスに関する事項

第23条第3項 サービスの反則

次のいずれかに該当するときは、サービスの反則とする。

- (1) サービス順を誤ってサービスをしたとき（サービス順の誤り）。
- (2) サービスの失敗を2回続けたとき（ダブルフォルト）。

(注)

サービス順を誤ってサービスをしたときの処置手順を再度確認する。

- 1 記録員は、誤ったサーバーが、サービスをしたときに、ブザーで通告する。

※ サービスを打つ前に通告しない。(副審に間違っていることを話しかけない)

- 2 副審は、片方の手を上げて吹笛をして合図をし、ラリーを止める。

- 3 副審と記録員は「誤ったサーバーのサービスであった事」の事実と、次のサーバーの番号を確認する。

※サービス順の誤りの事象を記録用紙上で確実に捉え、副審に報告することが重要である。

例) ○番がサービスを打つところ、○番がサービスを打ちました。次のサーバーは○番です。

また、審判員が事実を確認している最中には競技参加者に記録用紙を見せない

- 4 副審は、吹笛をして「サービス順の誤り」のハンドシグナルを示し、サービス順を誤った選手を指す。その後、主審は、「ポイント」のハンドシグナルを示し、副審も主審のハンドシグナルに追従する。

- 5 副審は、サービス順を誤ったチームのゲームキャプテンを呼んで、次のサーバーの番号を告げる。

※チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられたとき、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にサービス順を戻し、得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、罰則はそのまま有効とする。これらの事実は記録用紙に記録されなければならない。

5 不法な行為に関する事項

第27条 不法な行為

競技参加者が、試合中にプレーへの牽制、判定に影響を及ぼすような行為、判定に対する執拗な話かけや競技参加者の品位を損なう言動等軽度の不法な行為をしたときは、再発を予防するためそのチームまたはその競技参加者に警告する。この警告は次のように取り扱う。

第1段階 チームにゲームキャプテンを通じて口頭で警告する。

第2段階 競技参加者にイエローカードを示し警告する。

イエローカードが示された警告は、その試合において、次からはそのチームの競技参加者に罰則が適用されることを示し、公式記録用紙に記録してその試合中有効とする。

(注)

- 1 主審の判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、第 27 条に該当した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は罰則が科せられる。
- 3 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、罰則が科せられる。

【主に第 1 段階に該当するケース】

- ①主審が最終判定を出した後にも審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②主審がゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③繰り返しゲームキャプテンの質問の内容が規則の適用や解釈でない場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

【主に第 2 段階に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①主副審や線審の判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
 - ②主副審や線審の判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 4 監督が副審に話しかけることができるのは、得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
 - 5 プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだり、帽子をかぶることは許されない。
 - 6 試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神で互いに「握手」を交わす。

6 その他

(1) プロトコール

プロトコール（試合開始前）の時間配分および内容が変更されたので確認する。

〈試合開始前〉

- 9 分前 → 公式ウォームアップ開始を 10 分前から 9 分前に変更。
- 6 分前 → 公式ウォームアップの交替を 7 分前から 6 分前に変更。
- 3 分前までに → サービスオーダー票の提出を 3 分前までとした。
- 3 分前 → 公式ウォームアップ終了を 4 分前から 3 分前に変更。
- 1 分 30 秒前 → 選手のエンドライン整列を 2 分前から 1 分 30 秒前に変更。

(2) 競技場の規格

選手交代ゾーンを区画する破線のラインは、実線ラインで代用することも可とする。

『2020年度 指導部の目標とビーチバレーボールの重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 審判員は、競技規則を理解するだけでなく、正確に適用する。
- (2) 審判員は、ホイッスルやハンドシグナルを大切に、基本的な動きや位置取り、手続きを確実に行う。
- (3) 審判員は、向上心を持ち、日頃から信頼されるよう多くの経験を積む努力をする。

2 重点指導項目

【主 審】

- (1) 不法な行為について
 - ・選手ならびにチームスタッフの試合中の不法な行為は、毅然とした態度で対処し、必要に応じて適切に罰則を適用する。
- (2) サービス許可について
 - ・ラリー終了後、12秒以内にサービス許可のホイッスルができるよう、両チームが遅延なく準備をするよう促す。
 - ・ラリー終了後、12秒後にサーバーがボールを保持していても、レシービングチームが次のプレーの準備ができていない場合は、サービス許可のホイッスルをしてはならない。
 - ・サーバーによる遅延を防ぐ。(ボールを保持した状態でサービスゾーンの砂をならしたり、ボールリトリバーからボールを受け取らない等)
- (3) 遅延行為について
 - ・ラリー間やセット開始前、タイムアウト・テクニカルタイムアウト終了時において、選手などの行為が遅延の対象となるかを理解し、選手の遅延を防ぐ。以下の場合、必要に応じて罰則を適用する。
 - ①プレーを開始する準備が遅いとき
 - ②ラリー間において選手がサングラスや身体などについて砂を落としたり、ラインを直したりするとき
 - ※選手が上記の行為などを連続して二つ以上行った場合は遅延となる。
 - ③主審がキャプテンの質問に答えた後にも競技を再開しないとき
 - ※主審はキャプテンの質問に対して明確・簡潔に答えること。
- (4) ハンドリング基準について
 - ・クリニック等で基準の確認を行い、すべての審判員が統一できるようにする。特に、ハードドリブン（強打）ではないオーバーハンドレシーブやオーバーハンドのセットアップについて、正しく判定する。
 - ・ラリーを継続するという理由で基準を変えない。
- (5) 各プロトコルの的確な運用について
 - ・マッチプロトコル、ボールマークプロトコル、メディカルアシスタンスプロトコル及びプロテストプロトコルについて、その運用方法を理解する。
- (6) コーチングのコントロールについて
 - 国内の大会に適用される特別競技規則（ルールブック付録(1)※付則の1）を理解する。

【副 審】

- (1) 得点とサービス順について
 - ・スコアラー、アシスタントスコアラーと連携し、両チームの得点およびサービス順の確認を確実に行う。
- (2) 遅延行為について
 - ・選手のどの行為が遅延の対象となるかを理解し、選手に遅延行為をさせないよう積極的に動いて主審を補佐する。
 - ・選手の不測の事態（砂が口に入りうがいさせる場面やサングラスが破損し交換する際など）に対して、適切なコントロールを行う。
- (3) ネットへの接触・ネット近くの選手の反則について
 - ・タッチネット、アンテナ付近や許容空間外側のボール通過の判定を正しく行う。
 - ・ネット近くの選手によるプレーに対する妨害および相手コートに侵入した際に起こる妨害（インターフェア）の判定を正しく行う。
- (4) 試合中断の手続きについて
 - ・コートスイッチの手順及び取扱いを十分理解し、スムーズに行えるようにする。
 - ・タイムアウト、テクニカルタイムアウトにおいては、チームメンバーはベンチに戻るよう指示する。また、開始後 45 秒でホイッスルし、コートへ戻るよう積極的に指示する。

【スコアラー】

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスのないようにする。
- (2) コートスイッチとそれぞれのセット終了を主審と副審に知らせる。
- (3) 試合中、全ての罰則と不当な要求を記録するとともに、試合終了後は結果欄の記入を速やかに行う。
- (4) 記載ミスをした場合は、鉛筆で当該箇所を○で囲んで表示をする。最終確認のときに主審が修正する。（2重線で消さないこと）

【アシスタントスコアラー】

- (1) 常にスコアラーと声を掛け合って、サーバーの番号や得点を確認し合う。
- (2) ラリー終了後、すぐに次のサーバーの番号（ナンバーパドル）を示す。誤りがあればブザーまたは口頭で直ちに副審に通知する。
- (3) スコアラーズテーブル上のスコアボードを使用して得点掲示をするとともに、スコアボードの得点が正しいか確認する。
- (4) 予備の公式記録用紙を準備し、必要があればスコアラーに渡す。

【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。自身側チームのブロックにおけるボールコンタクト（自身側チームサイドにボールが入る場合）は、確実に見えた場合に限りラリー中も主審が確認できるように（2秒程度）フラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し、試合に臨む。
- (3) ラリー終了時に担当ラインのゆがみや砂の凹凸を速やかに修正する。2名の場合、ラインジャッジが立たないコーナー部分を特に注意する。
- (4) 選手の要求により必要に応じて、所持しているサングラスを拭くためのタオルを速やかに選手に渡す。

2020年度 ビーチバレーボールルールの取り扱いについて

1 競技参加者の行為 (PARTICIPANTS' CONDUCT) に関する事項

19.1 スポーツマンにふさわしい行為 (SPORTSMANLIKE CONDUCT)

- 19.1.1 競技参加者は、公式ビーチバレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。
- 19.1.2 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなくてはならない。疑問がある場合には、キャプテンを通してのみ説明を求めることができる。(規則 5.1.2.1)
- 19.1.3 競技参加者は、審判員の決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

19.2 フェアプレー (FAIR PLAY)

- 19.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 主審の判定に対するキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 19 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。
- 3 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①主審が最終判定を出した後も審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②一度指導された後にも、再びキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。

【主にステージ 2 に該当するケース (直接イエローカードを出すケース)】

- ①主副審やラインジャッジの判定に対して、執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
 - ②ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。
- ※上記について、威嚇的な態度や行為の内容や程度によって、無作法な行為あるいは侮辱的な行為として判断した場合には、規則 20 に基づき、罰則を適用する。

- 4 プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだりすることは許されない。

2 サービス (SERVICE) に関する事項

12.3 サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、サーバーがエンドライン後方でボールを保持し、両チームがプレーする用意ができていることを確認した後、サービスを許可する。

(注)

- 1 ラリーの終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、12秒以内のテンポで行う。ラリー間を一定に保つために、選手をコントロールするとともに、ラインや砂の状態、またはボールリトリバーのボール回しの状況を確認することが重要である。
- 2 ラリー終了12秒後に、サーバーがボールを保持していれば、主審はサービス許可のホイッスルをしてよい。サーバーが準備できているかどうか確認する必要はない。ラリー終了後、レシービングチームの準備が12秒よりも早い場合は、サーバーがボールを保持していてもサーバーの準備を待つことができる。また、すべての選手が準備できていれば、12秒より前にホイッスルしてもよい。ただし、レシービングチームが次のプレーの準備ができていない場合は、サービス許可のホイッスルをしてはならない。
- 3 ラリー終了後、サーバーが速やかにサービスゾーンに移動しない場合や、ボールリトリバーからボールを受け取らない場合、また、ボールを保持した状態でサービスゾーンを平らに直す行為等は、遅延行為として注意を与えなければならない。

3 中断 (INTERRUPTIONS) に関する事項

15.5 不当な要求 (IMPROPER REQUESTS)

15.5.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。(規則 6.1.3)

15.5.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。

(注)

- 1 サービスのホイッスルと同時に、あるいはその後の試合中断の要求は拒否され、ラリー終了後、記録用紙に不当な要求として記載する。もしも副審がホイッスルした場合やブザーが鳴った場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の措置を行う。
- 2 キャプテンではない選手がタイムアウトを要求したすぐ後 (同じラリー間)、続いてキャプテンがタイムアウトを要求した場合 (キャプテンが要求せずにそのままタイムアウトとしてベンチに戻ろうとしているときは、審判員からキャプテンにハンドシグナルを出すよう指示してよい)、タイムアウトの要求は許可される。キャプテンではない選手が要求したタイムアウトにキャプテンが同意せずコートに残っている場合等は、不当な要求とみなし、記録用紙に記録する。
(記入例) 「チームA 第1セット 3:7 不当な要求」
- 3 それまでにチームが遅延の罰則を受けていても、不当な要求がチームの最初のものであれば、拒否される。その際、ラリー終了後に不当な要求として記録用紙に記録する。

4 試合の遅延 (GAME DELYS) に関する事項

16.1 遅延行為の種類 (TYPES OF DELAYS)

試合の再開を引き延ばすようなチームの不当な行動は、遅延行為である。主なものは以下のとおり：

16.1.1 試合を再開するよう指示された後、中断をさらに引き延ばすこと。

16.1.3 試合を遅らせること (通常の試合の状況下で、ラリー終了からサービスのホイッスルまでは、最大限 12 秒間である)。

16.1.4 チームメンバーが試合を遅らせること。

(注)

- 1 選手が、サングラスを拭いたり砂をならしたりする場合、ラリー終了後、直ちに行わなければならない。一度次のポジションに着いた後に行うことは遅延となる。また、2つ以上の中断行為（サングラスを拭いた後、ラインや砂を直す等）も遅延となる。
- 2 TO及びTTOの終了後、コートへ戻る行為が遅い場合、またコートへ戻った後プレーを再開する前に線審のタオルでサングラスを拭いたりする場合も遅延行為となる。
- 3 選手の自然なリアクションか、判定をごまかす行動か、または遅延行為か等を的確に見極める。ライン際のポールインのポールマークを消すリアクションは、判定をごまかす行動だけではないことを理解しなければならない。
審判団は、選手がラインを直すことを要求することがないように、ラリー終了後速やかにラインや砂を直すことを優先し、特に主・副審は毎ラリー終了後にその状態を確認する必要がある。
- 4 副審は、ラリー終了後、まずサーバーの確認、スコアラーの任務の確認を速やかに行うとともに、プレーイングエリアの状態を確認すること。
- 5 主審がキャプテンの質問に答えた後にも、質問を繰り返したり、規則の適用や解釈ではない質問で中断を長引かせるようにした場合も遅延行為となる。

5 公式記録記入法に関する事項

2 トスの後に

2.2 副審から

- a) 最初にサービスをするチーム
- b) それぞれのチームの試合開始時のコートサイド

(注)

- 1 トスに勝ったチームが選択をした後、もう一つのチームが選択を終え、両キャプテンが記録用紙にサインをしている間に、主審・副審でトスの結果を復唱し、両者で間違いがないか確認する。
- 2 両キャプテンが記録用紙にサインをし終えたら、副審がスコアラーにトスの結果を伝える。
- 3 公式練習が終了する前に、スコアラーがトスの結果とサービス順を正しく記入しているか、主審・副審がスコアシートを確認する。
- 4 試合終了後、マッチプロトコールにしたがって審判台前からスコアラーステーブル前に戻る際、キャプテンがサインし終わるまではスコアラーステーブルのそばに近寄らず、一定の距離をあけて待つ。必要であれば、審判員がベンチに近寄ってキャプテンに声をかけてよいが、即座にサインをするよう強要すべきではない。

6 メディカルアシスタンスプロトコール (MEDICAL ASSISTANCE PROTOCOLS) に 関する事項

17.1 負傷/病気 (INJURY/ILLNESS)

17.1.1 ボールがインプレー中で、もしも重大な事故が起きた場合には、審判員は直ちに試合を止め、医療担当者がコートに入ることを許可しなければならない。ラリーはその後、やり直しとなる。

(注)

- 1 ラリー中に重大な事故が発生し、選手が出血している場合、またはプレーが続行され選手が状態を悪化させる可能性がある場合、審判員はすぐにホイッスルしてプレーを止める必要がある。その後、ラリーはやり直される。
- 2 選手が負傷/病気になった場合、ラリー終了後すぐに、副審は選手が医療支援を必要とするかどうかを確認する必要がある。
- 3 審判員は、メディカルアシスタンスプロトコールを開始する前に、その性質（出血、外傷性負傷、または猛暑等気象条件による病気）および程度（軽度または重度）を判断する必要があるため、負傷/病気に至る状況を把握していなければならない。
- 4 一試合中に同一選手がMTO（出血をとまなう負傷）とRIT（外傷性負傷）の両方を要求し、さらに、他の2つのタイプのRIT（猛暑等またはトイレの使用のいずれか）を要求する可能性があり、これらは使用順序に関係なく許可される。
- 5 さまざまな種類の負傷/病気と医療支援

負傷の種類	程度	措置	許可・計時
メディカルタイムアウト (出血をとまなう負傷) MTO (Blood)	軽度	<ul style="list-style-type: none"> —遅延なく治療 —医療支援なし 	主審により許可
リカバリーインターラクション (RIT)	RIT (Traumatic Injury) 外傷性負傷 プレー中に発生した事象のみ 例：選手が支柱にぶつかる、 選手間の衝突など	重度 <ul style="list-style-type: none"> —最初に、その時点で利用可能な TO または TTO, セット間を使用 —MTO または RIT/最大5分 	許可された時点から計時を開始
	RIT 猛暑等厳しい気象条件による病気 競技委員長が、審判委員長と協議したうえで、公式に厳しい気象条件下であると通知した場合のみ	<ul style="list-style-type: none"> —最初にその時点で利用可能な TO またはその他の正規の中断を使用 —RIT/最大5分 	主審により許可 許可された時点から計時を開始
	RIT トイレの使用 通常の試合中、選手がトイレの使用で遅延した場合のみ	<ul style="list-style-type: none"> —選手は、ゲームを遅らせない限り、試合中にいつでもトイレを使用する権利がある。 —最初にその時点で利用可能な TO または TTO, セット間を使用 —RIT/最大5分 —選手が戻ったらすぐに試合が再開される。 	主審により許可 TO, TTO, セット間の中断中から戻るのが遅れた時点で計時を開始

注：ゲームが遅延されない限り、医療支援はすべての正規およびその他のゲーム中断時に許可される。

7 猛暑対策に関する事項

選手の健康管理を考慮し、競技委員長または審判委員長の決定により、下記を段階的に適用する。

- (1) ラリー間12秒を15秒に延ばす。(選手には伝えない。)
- (2) コートスイッチごとに、速やかに水分補給することを許可する。(ベンチに座ったり、パートナーと会話したり、サングラスを拭く等はできない。)
- (3) 1, 2セット時には21-21のときに2回目のテクニカルタイムアウト(TTO)を、3セット時には3回目のコートスイッチのときにTTOを行う。

2020年度

**ラインジャッジ
マニュアル**

2020年3月20日 発行

公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会 指導部

『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

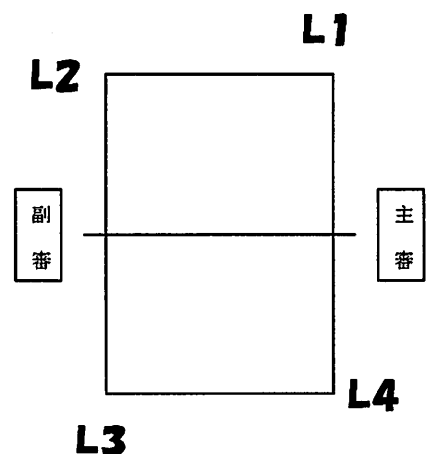
- (1) 試合開始1時間30分前までには、競技場に集合すること。
- (2) 競技場に集合したら、コート等の設営や試合に必要な用具等のチェックを積極的に協力すること。
- (3) 試合60分前にレフェリーミーティングが行われるので、主審、副審、スコアラー、アシスタントスコアラー、ボールリトリバー、モッパーと綿密に打ち合わせを行うこと。
- (4) レフェリーミーティングには、審判服で参加すること。胸には自分の公認された資格のワッペンを付けること。
- (5) レフェリーミーティングの前にラインジャッジは、誰がどのラインを担当するのか、また試合中のいろいろと起こるケースに対してどのような動き方をしたらいいのか、どのようにお互いに協力をしていくのかを事前に打ち合わせをしておくこと。特に、主審に見えにくい所や、アンテナ外通過、フライングレシーブで床にボールが落ちたかどうか、ブロッカーやレシーバーのボールコンタクトがあった際の出し方等をよく打ち合わせておくことよい。
- (6) フラッグの点検をする。
- (7) 試合開始30分前には、スコアラーステーブル後方に集合すること。
- (8) 公式ウォームアップ中、担当ラインの延長線上で、目慣らしをするとよい。
- (9) 公式ウォームアップが終了したら、担当の位置につき、ネットやアンテナが正しい位置に取り付けているかどうかチェックする。特にアンテナの取り付け位置については、ゲーム中でも十分注意する。

2. 試合中

《図1》

(1) ラインジャッジの位置

- ① 自分の担当するラインの想像延長線上でコートの各コーナーから2m離れ、ラインを身体の中に置き、視線はライン上に置くようにしてフリーゾーン内に立つ。エンドラインはライトサイドのコーナーから「L2」・「L4」が、サイドラインはレフトサイドのコーナーから「L1」・「L3」が統御する。(図1)



- ② レフトサイドからのサービスの時は、サーバーの妨害にならないように、サイドラインの延長線上、サーバーの後方に移動し位置する。その際、サーバーのフットフォルトの有無に注意するため、横には開かない。

(2) ラインジャッジのフラッグシグナル

- ① 起きた反則を確実に判定し、速やかにフラッグシグナルを示す。主審は、そのシグナルを確認して最終判定を示す。
- ② フラッグのポールに人差し指を添えてポールを握り、ひじが曲がらないようにまっすぐにフラッグを出す。まず構えた姿勢で判定を行い、すばやく姿勢を正してフラッグシグナルを示す。
- ③ 姿勢については、アウトオブプレー時は自然体でリラックスして立つ。また、サーバーがボールを打ってからは、移動しやすい低い姿勢をとり、目の位置を下げ、身体（腰）でボールを追う。目の位置が高いとボールを上から見ることになり、ボールと床の接点が死角となり、ボールがラインにふれているか明瞭に判定できない。低い姿勢が必要なときとそうでないときの区別をつける。サーバーがサービスゾーン後方から打つ時は、サーバー側のエンドライン担当のラインジャッジは、低い姿勢をとる必要はない。
- ④ フラッグシグナル（ボールイン、ボールアウト、ボールコンタクト、サーバーのフットフォルト等）のみ使用し、それをしばらくの間続けなければならない。
- ⑤ フラッグシグナルを出す場合（ライン判定をしっかりとってから）、身体とフラッグはラインに向け、顔だけを主審の方に向けて目をあわせ判定を伝えることが、お互いの信頼関係を保つ上でも非常に大切である。

3. 試合後

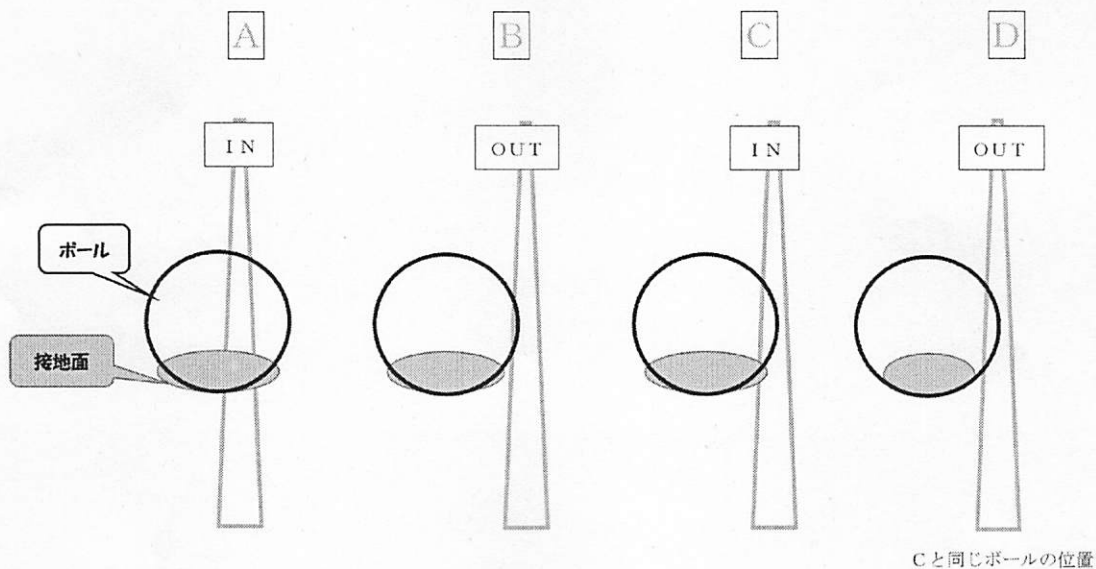
- (1) 試合が終了したら、スコアラーズテーブルの後方に集合し、主審、副審、スコアラー、アシスタントスコアラーと握手をする。
- (2) レフェリールームで主審・副審からアドバイスを受けると良い。
- (3) 審判委員長より試合全体を通してのラインジャッジの任務についてアドバイスを受けること。
- (4) 最後にお互いにディスカッションをすること。

『ラインジャッジの判定の仕方』

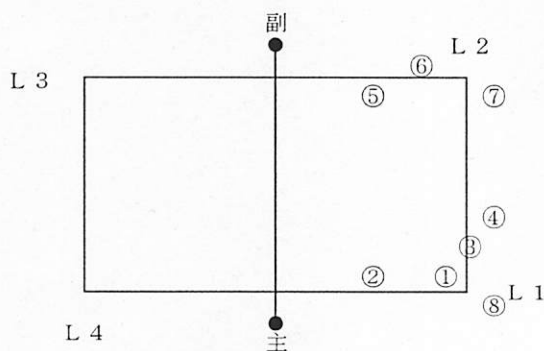
1. ラインに関する判定(ボールイン、ボールアウト)

- (1) ボールがライン付近に落下した場合は、そのラインを担当するラインジャッジだけがシグナルを出す。(1人1線が原則で「ボールイン」はライン2m以内とする)。各コーナーのコートに落ちた場合は2人のラインジャッジがシグナルを出す。《下図3参照》
- (2) ボールがインか、アウトかボールコンタクトかの判定は、速やかにシグナルを示さなければならないので、判定は躊躇してはいけない。シグナルが遅れると選手がアピールをする原因となる。
- (3) イン、アウトの判定は、最初はボールを見て、ボールが床近くにきたらボールから目を離し、ラインを見て判定をする。

《図2》『ボールと床の接点』 ※ラインの右側がコート



《図3》『コーナーのボールイン、ボールアウトの判定』

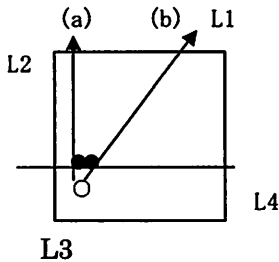


- | | |
|------|----------------------------|
| ボール① | L 1, L 2 が判定 (コーナー 2 m 以内) |
| ボール② | L 1 が判定 |
| ボール③ | L 2 が判定 |
| ボール④ | L 2 が判定 |
| ボール⑤ | L 3 が判定 |
| ボール⑥ | L 3 が判定 |
| ボール⑦ | L 2 が判定 |
| ボール⑧ | L 1, L 2 が判定 |

2. ボールコンタクトの判定

- (1) ボールコンタクトを認めた場合は、フラッグをあごの下でやや高めに旗を立てて旗の先を別の手で触れる。スパイクボールがコート内に落ちた場合は、ボールインのフラッグシグナルを出す。
- (2) ラインジャッジの任務は、まずライン判定である。ブロックのボールコンタクトに集中しすぎることなく、ボールより先にラインに目をやり、正確に担当ラインの判定を行う。
- (3) レシーバーにボールが触れコート外に出た場合は、担当ラインとレシービングサイドのラインジャッジがボールコンタクトを示す。
- (4) ボールがブロッカーに触れコート外に出たことが明らかな場合は、レシービングサイドのラインジャッジと担当ラインのラインジャッジのみがボールコンタクトを示す。またスライスタッチでブロッカーにボールが触れコート外に出た場合は、ボールのコースによって、下記の要領で担当ラインジャッジがフラッグシグナルを示す。

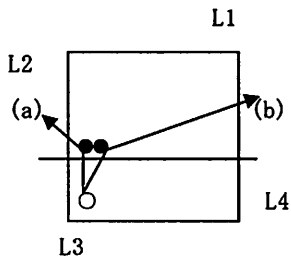
① ボールがブロッカーに触れてエンドライン外後方に出た場合



(a) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(b) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

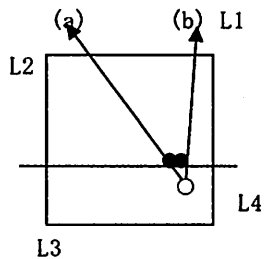
② ボールがブロッカーに触れてサイドライン外後方に出た場合



(a) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(b) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

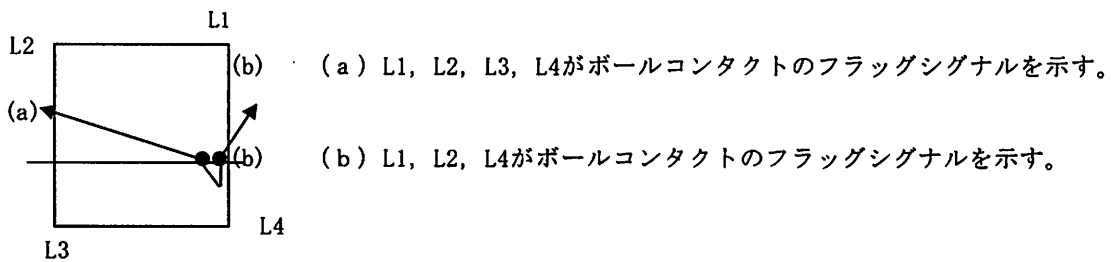
③ ボールがブロッカーに触れてエンドライン外後方に出た場合



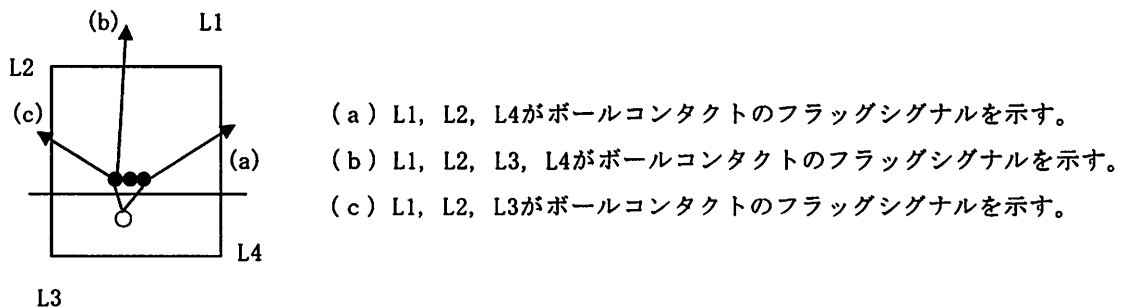
(a) L1, L2, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(b) L1, L2, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

④ ボールがブロッカーに触れてサイドライン外後方に出た場合



⑤ コート中央からのボールがブロッカーに触れてコート外に出た場合



3. ボールが床に触れたかどうかの判定

- (1) パンケーキのプレーで、自コートにボールが触れたことが確認できた場合は、ラインジャッジがシグナルを示す。
- (2) フラッグシグナルは、ボールインのフラッグシグナルではなく、身体の斜め前で、2・3回床をたたきシグナルで示す。

4. サーバーのフットフォルトの判定

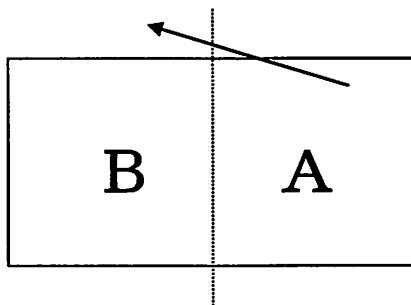
- (1) サーブを打つ瞬間の足の位置、及びジャンプサーブなどで踏切る足の位置がサービスゾーン外やコート内であれば反則となる。その判定はエンドライン担当のラインジャッジが判定しサイドライン側であれば、サイドライン担当のラインジャッジが判定をする。
- (2) フラッグシグナルは、頭上で旗を左右に1往復振り、片方の手でラインを指す。

5. アンテナ付近を通過したボールの判定

アンテナ付近をボールが通過する場合は、そのコースに対応するラインジャッジが、判定をするのが望ましい。その際、自分が担当するラインの判定に支障のない範囲（1，2歩）で動いて、ボールとアンテナの位置を確認し判定を行う。

(1) 許容空間外（アンテナの外側または上方）を通過した場合

① ボールがフリーゾーンやフリーゾーン外に落ちたとき。



a : チームの1回目・2回目の接触後の場合

主審：落ちた瞬間にホイッスルをする。

副審：ホイッスルをしない。

ラインジャッジ：落ちた瞬間に「アウト」を示す

b : チームの3回目の接触後および9人制の場合

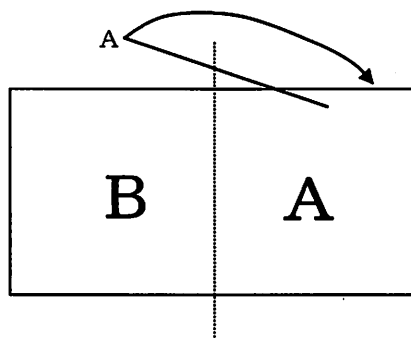
主審：ネットの垂直面を通過した瞬間にホイッスルをする。

副審： ”

ラインジャッジ：ネットの垂直面を通過した瞬間に「アウト」を示す

② Aの選手がボールに触れたとき。

a : 許容空間外を通過してボールを取り戻したとき

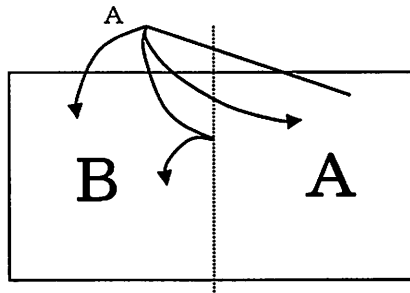


主審：ホイッスルをしないでラリーを続行する。

副審： ”

ラインジャッジ：フラッグシグナルは示さない。

- b : ボールが許容空間内を通過したとき。また、ボールがアンテナの内側のネットに触れたり、床に触れたとき。



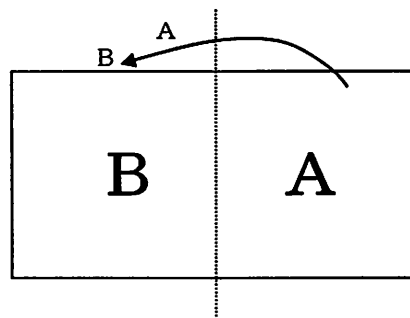
主審：サイドライン上を完全に通過した瞬間にホイッスルをする。

副審： ”

ラインジャッジ：サイドライン上を完全に通過した瞬間にフラッグを振る。
(一往復)

- ③ ボールがアンテナの真上や外側を通過してBチームの選手に触れたとき。

- a : Aチームの選手がボールを追いかけている場合、Bチームの選手のインターフェアとなる。

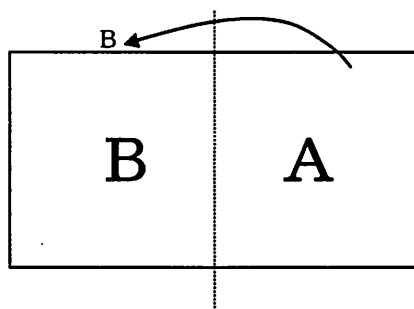


主審：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にホイッスルをする。

副審：ホイッスルをしない。

ラインジャッジ：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にフラッグを振る。
(一往復)

b : Aチームの選手がボールを追いかけていない場合

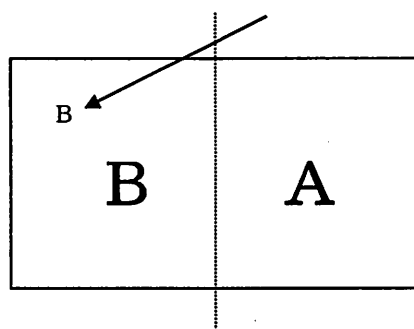


主審：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にホイッスルをして、Aチームのアンテナ外通過でボールアウト。

副審： //

ラインジャッジ：フラッグを振る。(一往復)

(2) Aチームのフリーゾーンから許容空間外（アンテナ上方を含む）を通過してBチームのコートに向かっていく場合。

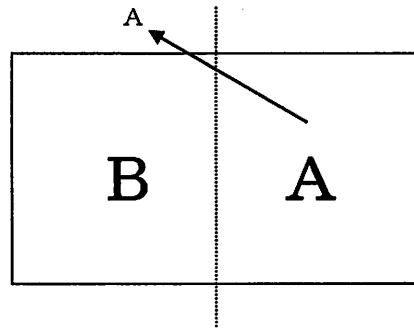


主審：ネットの垂直面を通過した瞬間にホイッスルをする。

副審： //

ラインジャッジ：ネットの垂直面を通過した瞬間に「アウト」を示すか場合によっては、フラッグを振る。

- (3) Aチームのコートから許容空間を通過してBチームのフリーゾーンに向かって行く場合。



a : Aチームの選手がボールに触れたとき。

主審：触れた瞬間にホイッスルをする。

副審： //

ラインジャッジ：触れた瞬間にそのコースのラインジャッジがフラッグを振る。(一往復)

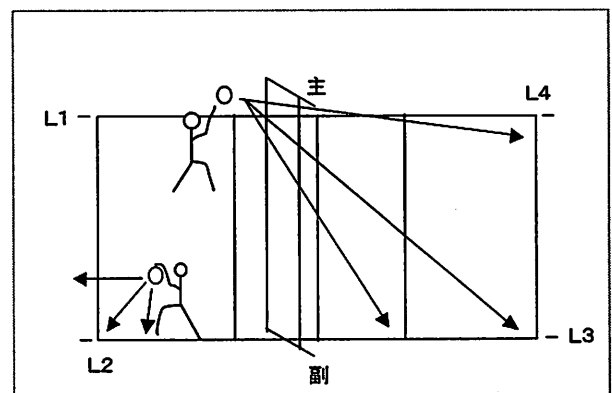
6. トレーニングマニュアル

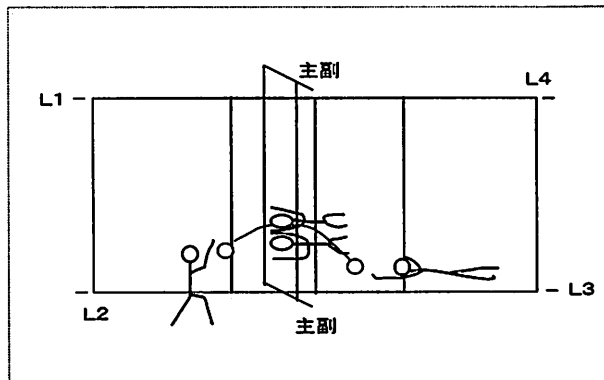
(1) レシーブボールが床に触れたかどうか

- ① 主審・副審のアシストをしなければいけないので、低い姿勢でボールと床面との接点を見る。ボールが床面に触れた瞬間にフラッグシグナルを出す。
- ② タイミングが遅れ躊躇すると、選手のアピールのもとになるので十分注意すること。

★ライン判定

- a サイド、エンドラインにぎりぎりに打つ
- b コーナー(1m 以内) に打つ
- c 選手でボールが見えない時の判定



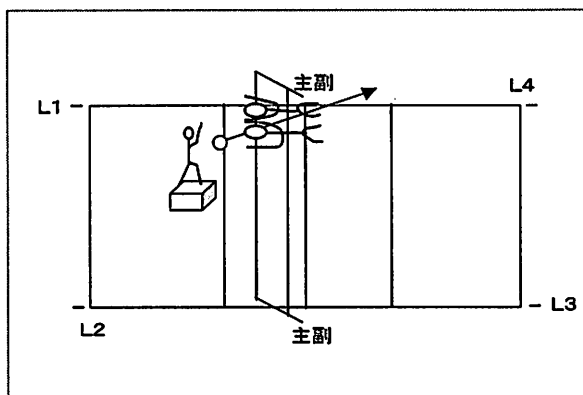


★床に落ちたボールの判定

- a フェイントボール・tip playをフライングレシーブで手の甲でボールを上げる。
- b ブロックカバーのプレーヤーの陰になってプレーが見えないケース。

(2) アンテナ付近をボールが通過する場合について

- ① 確認できたラインジャッジのみがシグナルを出す。
- ② ネット幅1mの間のアンテナに当たった時は、一番見やすい位置にいるラインジャッジが判定すべきである。

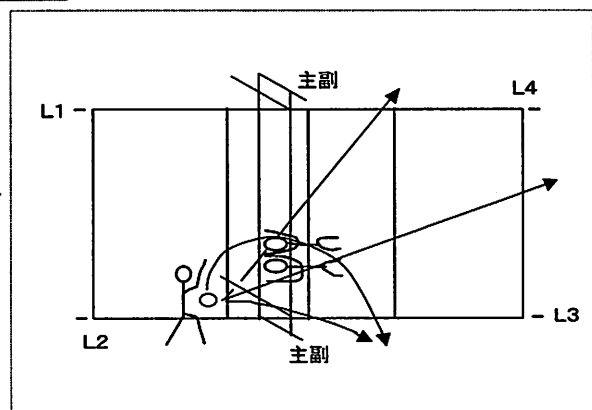


★ボールがアンテナに当たるケース
★ブロッカーがアンテナに触れるケース

- a 台上よりスパイクを打つ。
- b アンテナぎりぎりに打つ。
- c アンテナ外を通過するボールを取り戻すケース

★アンテナ外通過ボールを色々な角度から取り戻す。

★ボールの角度によって、どのラインジャッジがライン判定をおろそかにしないで、どのように動いたらいいのかを確認する。



※ ラインジャッジの動きに十分注意すること。ボールのコースに入るために、極端に動いてライン判定がおろそかになったり、またコースに入らないで判定すると不信感をもたれるので動く範囲を十分に確認する必要がある。

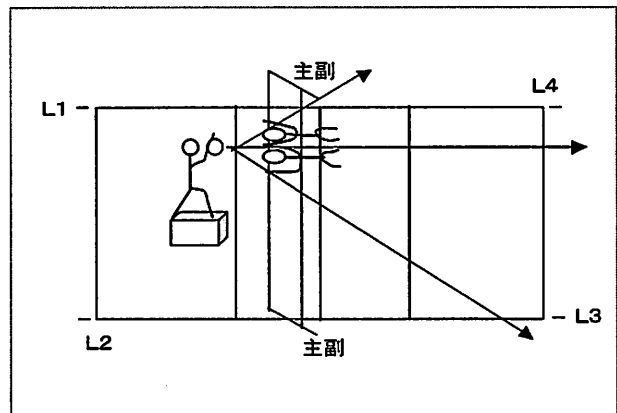
※ 取り戻されたボールが許容空間内を通過した場合は、フラッグを左右に振る。

(3) ブロッカーとレシーバーのボールコンタクトについて

- ① 特にブロッカーの上（指）をかすっていくケースや左右をかすっていくケースは、主審・副審からは非常に見にくいケースもあるので、原則的にはレシーブ側の2人のラインジャッジがフラッグシグナルを送る。しかし4人のラインジャッジが明らかにボールコンタクトを確認できた場合は確認したラインジャッジが、ボールコンタクトのフラッグシグナルを送る。
- ② アンテナ付近、特に副審側でのアタッカーが意識してタッチアウトを狙うプレーのブロックのボールコンタクトはしっかりと見る。
- ③ スパイカーがボールをスパイクして、ブロックにはねかえったボールが、そのスパイカーに当たった場合
・特に主審側で起こるケースは、主審の死角になるケースが多いので担当のラインジャッジはしっかりと見ること。

★ブロッカーとレシーバーの
ボールコンタクト

- a 台上よりスパイクを打つ。
- b ボールがブロックの上をかすめるケースと左右をかするケース。
- c ライン際のレシーバーのボールコンタクトも主審の死角になるケースがあるので、ライン判定も十分注意しながら、視野に入れてみる大切である。



ビーチバレーボール補足資料

(前述に加え、ビーチバレーボール特有の責務及び判定を付記)

『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

(1) 服装

- ① ポロシャツ、キャップ、ハーフパンツを着用する。※大会で支給される場合は支給品を着用する。
- ② 履物は白系統の運動靴と靴下の着用が望ましい。
- ③ サングラスの着用も可能。

(2) 第1試合は、試合開始20分前に、事前に指示された場所に集合する。

(3) 第2試合以降は前の試合の1セット目終了後、事前に指示された場所に集合する。

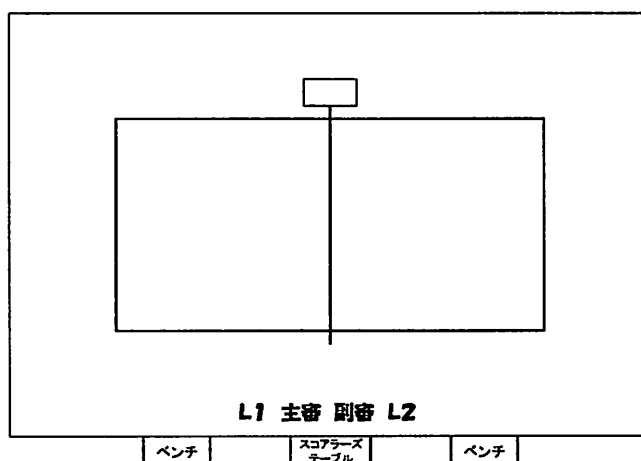
(4) 事前にフラッグとサングラス拭き用のタオルを確認し、マッチプロコール時にはタオルをハーフパンツの中(利き腕と反対側)に目立つようにつける。(ポケットの中にはしまわない)

(5) マッチプロコール中は、スコアラーズテーブル前に整列する。〈図1参照〉
(4人の場合はL1・L2・主審・副審・L3・L4という位置で整列する。)

(6) 公式練習終了後、主審が審判台に向かうタイミングで競技エリア内の所定の位置につく。
(4人の場合は、L1・L2とL3・L4が一行に並んで所定の位置に向かう。)

(7) サンドレベラーがレーキをかけた後に、担当ライン上の砂を落とし、ラインの状態、アンテナ、サイドバンドに歪みがないか確認する。

〈図1〉 公式練習中の審判団の位置



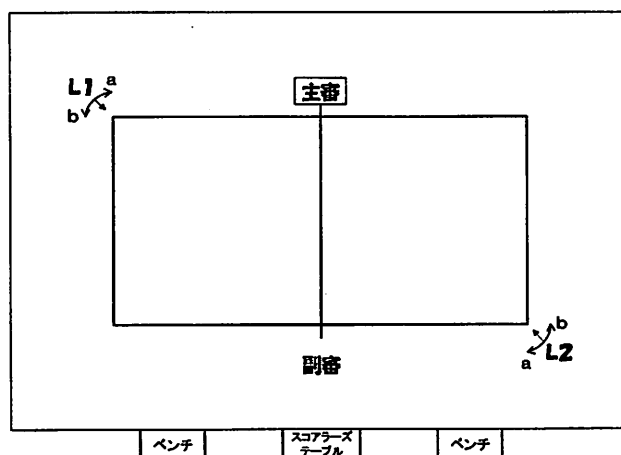
2. 試合中

(1) インプレー中のラインジャッジの位置

① ラインジャッジが2人の場合<図2参照>

- ・主審と副審の右側コーナーから、1 m離れた対角線の位置に立つ。
- ・それぞれ自身側のエンドラインとサイドラインの両方を統御する。
- ・ボールが向かってくる方向によって、位置を変えて判定する。(左右1歩程度) エンドラインを判定するときは、aへ移動し、サイドラインを判定するときは、bへ移動する。
- ・自身側からの攻撃の場合には、原則としてbへ移動し、サイドラインの判定を中心に行う。
- ・自身側チームのサービスの際には、aへ移動し、フットフォルトの有無に注意する。

< 図 2 > 試合中のラインジャッジの位置



② ラインジャッジが4人の場合(6人制・9人制と同じ)

- ・自分の担当するラインの想像延長線上でコート各コーナーから2 m 離れ、ラインを身体を中心に置き、視線はライン上に置くようにしてフリーゾーン内に立つ。
- ・エンドラインはライトサイドのコーナーから「L 2」・「L 4」が、サイドラインはレフトサイドのコーナーから「L 1」・「L 3」が統御する。

(2) アウトオブプレー中や試合中断中の位置や動き

- ・ラリー終了時には、担当ラインの歪みやラインにかかる砂の凹凸を確認し、必要に応じて素早くライン及び砂の状態を修正する。
- ・風でラインが揺れる場合には、ラリー終了時にライン上に拳大の砂山を作りラインの揺れを止める。
- ・アウトオブプレー中には、選手がサングラスを拭くためにラインジャッジが持つタオルを使用する場合があるため、選手が寄ってきた際には、速やかにタオルをハーフパンツから取り、選手に渡す。
- ・タイムアウトやTTO、セット間は、サイドライン後方のフリーゾーン際まで(ラインの歪み等を確認しながら)コート側を向いた状態で下がり、自然体で

リラックスした姿勢で待つ。(広告バナーがある場合には、文字等を隠さないようバナー間に立つ)その際、水分補給を行う場合には、フリーゾーンコーナー外側に置いてある各自の水分で速やかに補給する。

- ・ サンドレベラーがライン上にレーキをかけた後は、各コーナーに移動し、2人のラインジャッジでサイドライン上、その後にそれぞれがエンドライン上の砂を落とし、ラインを真っすぐにする。4人の場合には、「L1」と「L4」、「L2」と「L3」でサイドライン上を、次いで「L1」と「L2」、「L3」と「L4」でエンドライン上の砂をそれぞれ同時に落とし、ラインを真っすぐにする。

3. 試合後

- (1) 審判台の左右(主審・副審の外側)に整列し、選手・各審判員と握手をする。
- (2) 主審・副審の後についてスコアラズテーブル側に戻り、フラッグ、タオルをたたみ、スコアラズテーブルに置く。

『ラインジャッジの判定の仕方』

1. ラインに関する判定(ボールイン・ボールアウト)

- (1) 2人の場合、イン、アウトの判定はライン正面に移動して行うことが望ましい。しかしながら、ボールの速度が速く、ライン付近に落下する前に正面に移動できない場合には、移動することよりも静止して判定することを優先し、イン、アウトの確認を行ってから、フラッグシグナルを行う際に、ライン正面に移動する。
- (2) ラインにボールが接触すれば、ボールインの判定をする。
- (3) ラリー中、風や選手のプレー中の動きによって正常ではない位置にラインが動いた場合、たとえ大きく曲がっていても、ラインを基準にボールイン・アウトを判定する。また、主審の最終判定が終わるまでラインの修正は行わない。
- (4) 主審がボールマークプロトコルを宣言した時は、ラインにボールが接触したか、接触しなかったかを明確に口頭で伝え、フラッグ等でボールの落ちた位置を指さない。※主審が最終判定をしたあと、主審とアイコンタクトをとりボールマークを消す。

2. ボールコンタクトの判定

自身側チームのブロックにおけるボールコンタクト(自身側チームサイドにボールが入る場合)は、確実に見えた場合に限りラリー中も主審が確認できるように(2秒程度)フラッグシグナルを示す。